

件名	加賀市定住促進協議会 第5回 加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会
日時	平成29年3月28日(火) 15:00~16:30
会場	加賀市立中央図書館2階視聴覚室
出席者	(委員) 松下座長、馬場先委員、宇野委員、三本松委員(代理:河合氏)、野澤委員、 藏田オブザーバー (事務局) 河合副市長、代工市民生活部長、宮地理事、荒谷山中支所長、高川健康福祉部長、北七長寿課長、新家振興課長、山下地域包括支援センター所長、 大田地域医療推進室長、山村人口減少対策室長、一般社団法人生涯活躍のまち推進協議会 堀田氏
資料	○資料1 加賀市版「生涯活躍のまち」構想(案)に対する意見公募結果について ○資料2 加賀市版「生涯活躍のまち」構想(案) ○資料3 加賀市版「生涯活躍のまち」構想(案)(概要版)(案) ○資料4 加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画(案) ○資料5 モデル地域における「生涯活躍のまち」事業イメージ
会議内容	
座長挨拶	(松下座長) ● 本日もお忙しいところお越しいただきありがとうございます。第5回の検討部会ということで、よろしくお願ひしたい。 (宮地理事) ● それでは、加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会設置要綱第5条第2項に基づき、本会議の議事進行を松下座長にお願ひいたします。
加賀市版生涯活躍のまち構想について	(松下座長) ● では、議事を進行する。次第3の議事の(1)加賀市版「生涯活躍のまち」構想について、事務局から説明をお願ひする。 (山村人口減少対策室長) ● 第4回検討部会におきまして、1月18日から2月14日まで、構想に対する意見公募を行う予定とお伝えしたので、意見公募の結果と、市としての考え方の案について説明する。 ● 提言1につきましては、全体的なビジョンに対する提言です。これにつきましては、平成27年10月に策定した「加賀市まち・ひと・しごと総合戦略」の基本目標の考え方を示し、取り組みを進めていくと回答したい。また、企業誘致等の提言については、基本目標Iの実現に

	<p>向け貴重なご意見として参考としていくと回答したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 提言 2 の 3. 4. は人口減少に関する提言ということで、地元で頑張っている企業や移住者の方を広報等で紹介したらどうかという意見や、加賀温泉駅前には病院やドラッグストアが目立つので、ゆっくりできるようなお店や子ども達が遊べる公園があるとよいという提言である。こちらの方についても、(提言 2 の) 1. 2. については構想の中で具体的に直接検討させて頂くという答えとしたい。3. 4. については、加賀市定住促進協議会のポータルサイトや移住ガイドブックで情報発信をしていると回答したい。</li> <li>● 3 番目については、移住定住に関する一般的な提言として、現在市で行っているローカルベンチャー育成事業や、加賀市定住促進協議会で実施している移住コンシェルジュの活動状況について回答したい。</li> <li>● 4 番目に、このような取り組みについてもっと周知をしたらどうかという意見があったが、2 月 28 日の講演会の内容について提言させて頂いている。その他の取り組みについても情報発信に注力していきたいと回答したい。</li> <li>● 5 点目については、たばこに関する提言であり、貴重なご意見として今後の市政運営の参考とさせて頂きたいと回答させて頂きたい。</li> <li>● パブリックコメントの内容は以上。</li> </ul>
<p>質疑</p>	<p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ありがとうございます。説明頂いた構想の意見公募について、意見等はあるか。</li> </ul> <p>(質疑・意見なし)</p> <p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 意見公募に関する市の考え方について、具体的な意見はないようですので、パブリックコメントへの対応として了承する。</li> </ul>
<p>加賀市版「生涯活躍のまち」構想の変更点</p>	<p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 次に、前回からの「生涯活躍のまち」の変更点について、事務局から説明をお願いしたい。</li> </ul> <p>(山村人口減少対策室長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 構想の変更点について説明する。</li> <li>● 資料 2 の加賀市版「生涯活躍のまち」構想(案)をご覧頂きたい。先日構想について委員の皆さんに説明に伺った際に頂いた意見をこれに反映している。具体的には 15 ページを見てほしい。「4. 加賀市版</li> </ul>

	<p>「生涯活躍のまち」の想定地域・事業実施体制」の「3) その他の地域」のところで、具体的に山中圏域以外の地域における展開についての記載を追加している。変更箇所については以上であり、庁内関係部局の方で表記のゆれ等の確認をしているところである。事務局からの説明は以上。</p>
<p>質疑</p>	<p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ありがとうございます。何か質問はないか？</li> </ul> <p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 13 ページにエリア型、タウン型とあるが、山中でやるとしたらエリア型なのか、それともタウン型なのか？</li> </ul> <p>(山村人口減少対策室長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 山中圏域については、旧山中温泉医療センター跡地という、一定の使用可能な土地の見込みがあるので、こちらに機能を集約させるエリア型という形で整備を進めていく予定。他の圏域における展開は、一定の使用可能な土地があればエリア型を想定することができるが、それが無い場合はタウン型という形で、既存の施設をつなぎ合わせるような「生涯活躍のまち」づくりが想定されると考えている。</li> </ul> <p>(宇野委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 7 ページの「4. 加賀市の移住定住促進の取り組み」のところに、ローカルベンチャー育成プロジェクトの記述がある。昨日 IoT の講演会に行ってきたが、今後加賀市が IoT 人材に力を入れて取り組んでいくという決意が宮元市長から発せられた。人材養成には必ず出口がある。人材養成を受けて自分たちはどのような起業をしていきたいのか、どのような地域課題に向けて技術を活かしたいのか、ソーシャルビジネスを興していきたいということであれば、構想と出口が絡んでくると思うが、このあたりの連携についてはどのように想定しているのか？</li> </ul> <p>(山村人口減少対策室長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 9 ページに基本コンセプトを図で説明している。今回の加賀市版「生涯活躍のまち」は、元気な中高年に加えて若い方々の移住促進も展開していくこととしている。既に加賀市の取り組みとして、ローカルベンチャーや若者等就労支援を実施しており、様々な要因を抱えて生活に困っている都会の方々へのサポートにも取り組んでいるところである。これらの事業も「生涯活躍のまち」に絡めながらやっていく。特にローカルベンチャーについては、ソーシャルビジネスとして、地域資源を活用しながら課題解決を図る事業を、「生涯活躍のまち」と</li> </ul>

	<p>連携しながらやっていくということを想定している。</p> <p>(宇野委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● そのような位置づけがきちんとなされていればよいと思う。</li> </ul> <p>(山村人口減少対策室長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 後ほど基本計画の中で話すが、モデル地域としてやっていく山中圏域の中でも、IoTの活用を盛り込んでいきたいと考えている。</li> </ul> <p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ありがとうございます。委員の皆様からは大変貴重な意見を頂いた。頂いた意見については、事務局の方で構想に反映させて頂くが、今回の検討部会が最後の会となるので、変更箇所については座長預かりとさせて頂く。</li> </ul>
<p>加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画について</p>	<p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 続いて、次第 3 (2) 加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画について事務局に説明をお願いしたい。</li> </ul> <p>(堀田氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本計画について説明したい。先般委員の皆様を訪問し内容について説明したが、様々な意見を頂いた。それを踏まえて計画を作成してきたので、内容について説明したい。</li> <li>● 資料 4 をご覧頂きたい。1 ページ目は、構想を受けての基本計画となることから、あらためて構想について紹介している。構想において示された基本方針を基に、モデル地域を示し、この具現化についてここに記載している。</li> <li>● 2 ページ目は、計画の位置付けについて図で示している。加賀市版「生涯活躍のまち」構想は前の議題で議論されたが、この構想は、そもそも加賀市が制定した上位計画に基づいて作成されており、基本計画はこの構想を基に作られている。基本計画を事業化する段階で、形成事業計画をつくることとなる。基本計画は、第 4 回検討部会で説明したものをベースにつくっているが、これに事業戦略イメージを追記している。</li> <li>● 3 ページの上の表にて、従来の基本計画に付け加えたところを説明している。「時代に見合った地域をつくり安心なまちを支える」(紫色の円) という部分が「生涯活躍のまち」のベースとなる地域づくりで、「新しい人の流れをつくる」(緑色の円) という事業と連携し、中高年齢者のみならず、若い世代の移住育成にも取り組んでいくというのが、加賀市版「生涯活躍のまち」の目玉である。今回これに「仕事をつくり安定した雇用を創出する」【スマートウェルネス KAGA の実現】</li> </ul>

を加えることにより、IoTとの連携を含めて、人を呼び込む、地域の活力を上げる効果を狙っていくこととしている。

- 3ページの下の方で、具体的な取り組みについて示している。図の中心にきているのが、「生涯活躍のまち」の中心となる「多世代交流促進・健康増進」を核とした地域づくりで、これに、左側に記載している「移住定住促進事業」「若者のチャレンジ事業」等を組み合わせて実施していく。さらに右側のIoT、ICTを組み合わせていくことによって、地域が元気になっていく姿を可視化していく。そのためのソフト開発や仕組みづくりも合わせて、実証の場を提供することで仕事づくりにもつなげていく。また、大学や研究機関と連携し、実証結果を検証しシンポジウム等を通じて次世代型地域包括ケアのモデル地域として発信していく。
- 4ページは、加賀市版「生涯活躍のまち」構想で示した基本方針に基づいた考えを改めて記載した。
- 5ページは、地域交流拠点の役割として、政府の有識者会議資料に示される調査結果を例示し、地域交流拠点を核に多世代交流を促進することで、健康増進、健康でアクティブな生活の促進を担うとして説明している。
- 6ページでは、モデル地域の拠点エリアに必要な機能について、「①地域交流拠点」「②元気な中高年齢者向け賃貸住宅」「③若者向けシェアハウス」「④共同売店」「⑤共同農園」「⑥こども広場」「⑦定期市（マルシェ）」を挙げている。これらは第4回検討部会で説明したものと同一。
- 7ページは、エリアの中の「地域交流拠点」に持ちたい機能を挙げている。「①温泉を活用した健康増進機能」「②地域密着型ウェルネス」「③地域交流スペース（カフェ・レストラン）」「④高齢者福祉サービス」「⑤障がい者福祉サービス」「⑥産直・直売等物販」「⑦ものづくりコワーキングスペース（市民工房）」の7つの機能で、人を集める機能として提示した。これも第4回検討部会の説明と同様。
- 8ページは、「新しい人の流れをつくる取り組み」として、「加賀市定住促進協議会」と連携して移住事業を促進していくこと、また、「ローカルベンチャー育成プロジェクト」「若者等就労支援事業」と、若者の移住にも連携して取り組んでいくことについて記載している。また、移住のみならず、地域を好きになってもらえる、また、ファンをつくっていく事業と組み合わせることを念頭におき、「PLUS KAGA 次世代構想ワークショップ」についても記載している。モデルプロジェ

クトでは、これら事業と連携していく取組みを行っていくこととしている。

- 8 ページ後段には、今回新たに追加した「仕事をつくり、安定した雇用を創出する取組み」について説明している。加賀市の産業振興行動計画である「スマートウェルネス KAGA」の最重要施策のひとつである「健康・医療・福祉・介護分野」の取組みと連携し、例えば、「健康」についての取組みを IoT の力で「見える化」していく。例えば、スマホのアプリ等で「関わり度」が測れるようにして、モデル地域で実証する、これを研究機関等と連携して検証する、そういった取組みができていけば、まちの訴求力も高まっていく。これを、シンポジウム等を通じて発信していくということをここに記載している。
- 10 ページに、「実施体制」について改めて記載している。事業を具体的に始めるにあたり、「生涯活躍のまち」協議会」を設置する。この協議会が、2 ページで説明した形成事業計画作成の諮問機能を持つ他、3 つの円で示したような、地域づくりに加え、移住促進への取組み、産業促進への取組みとの連携や、地域の理解を得るための多様な主体の意見交換を行うプラットフォームとしての役割等について記載している。
- 下段には、「運営推進機能を担う事業運営主体」として、「(1) 事業運営主体」の役割、すなわち、地域交流拠点を整備し、それを運営することで多世代間交流を促進していくことについて説明している。次に、「(2) 想定される事業運営主体と持続可能な運営体制の確保」のところでは、運営主体は民間の参入を想定しているため、民間が参入しやすい環境を整える必要があるという意味で、補助金の活用等について記載している。また、収益構造についても触れている。国の「生涯活躍のまち」構想の手引きで例示されるビジネスモデル等を見ると、サービス付き高齢者住宅の運営を核とする事業者と、福祉事業を核として展開していく事業者が挙げられている。加賀市の場合は、中高年齢者のみならず、若者層もターゲットとしており、サービス付き高齢者住宅が核となる事業者の場合は、30 戸余りの入居者を確保しないと経営的に成り立たないことを考えると、今回の事業には沿わないと判断し、福祉サービスを実施しつつ、地域づくりを展開することができる事業者を想定して記載している。現時点では、具体的な団体を想定している訳ではないため、「(3) 事業運営主体選定の考え方」を記載している。
- 12 ページは、モデル地域の概要として、旧山中温泉医療センター跡

	<p>地を山中圏域のモデル地域として推進していくことを記載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 13 ページには山中圏域の情報を記載。山中圏域は人口推計で示している通り、加賀市の中でも人口減少の課題が顕著な地域となっている。</li> <li>● 14 ページから 16 ページにかけて「地域資源」「旧山中温泉医療センター跡地の現状」について記載している。内容は第 4 回検討部会で説明している通り。</li> <li>● 16 ページの「モデル地域選定理由」については、第 4 回検討部会でも説明したとおり、旧山中温泉医療センター跡地が市有地として十分な敷地を有していること、市の活用プランや地元の要望にも合致していること等について説明している。</li> <li>● 17 ページには目標設定（KPI）の考え方について記載している。基本計画の段階では具体的な数値を示しておらず、この後の形成事業計画のところで事業者と共に示される予定であるが、目指すべき成果の考え方について記載している。事業そのものが人の流れを呼び込むべきものであることから、「移住促進に関する成果」を最初に記載した。これはエリア内への移住者の数によって測ることができる。「雇用創出に関する成果」については、現役世代の移住を目指していることから、ローカルベンチャー等も含め、どれだけ雇用が生まれたかを数値として測ることとしたい。</li> <li>● 18 ページには「定住促進に関する成果」を記載した。これは実際に測るには難しい数字であるが、移住者のみならず、もともと加賀に住んでいる人たちの流出を防ぐという狙いもあることから、これを記載している。「健康増進に関する成果」は、地域交流が促進されることによって健康も増進されることを狙っていきたいことから、数値化することを考えている。最後に、地域が元気になったということも示していきたいため、「地域活性に関する成果」を記載した。</li> <li>● モデル地域における事業展開の考え方、基本計画の説明は以上となる。</li> </ul>
<p>質疑</p>	<p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 説明のあった基本計画について、意見や質問はないか。</li> </ul> <p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業運営主体の説明の収益構造でサービス付き高齢者住宅を核とする事業者ではなく福祉事業を核とする事業者を想定していると説明があったが、もう少し詳しく理由を聞きたい。</li> </ul> <p>(堀田氏)</p>

- 人がたくさん行き交う拠点を運営したいと考えたとき、例えば公民館だとすると、事業運営者が何を収益にするかという点で困難な面がある。施設を福祉サービスの事業所とすることで、高齢者福祉や障がい者福祉のサービス、例えばデイサービス、生活介護、就労支援の場としてのカフェ等の活用も考えられる。加賀市の場合は高齢者福祉が充実しているため、イメージとしては障がい者福祉のボリュームが大きくなるのではないかと想像しているが、いろいろな世代の人にたくさん来てもらえる場所ということで、このような施設があることが望ましい。また、施設整備費用について、福祉事業所として整備すれば補助金等も申請できるので、そういった意味でも事業者が参入しやすくなるのではないかと考えている。

(松下座長)

- ありがとうございます。他に意見は。

(宇野委員)

- 昨日、加賀市で開催された IoT の講演を聞いた。その中で、今 IoT はどのようなところで使われているのかという話があったが、障がい者の機能回復、病気を持った人のデータ集積管理等、健常者よりむしろこのような分野で使われているようである。例えば、スマートコンタクトレンズというのは、見るだけではなく眼球の毛細血管をウォッチし、血糖値を測りながら健康管理を行っている。今後の IoT の人材養成については、高齢者、障がい者等、いろいろな方が一緒に地域に住むことによって、IoT をどのように活用できるのかを現場で学ぶ機会となり得る。IoT の開発拠点となる可能性もある。「ごちゃまぜ」で住む形こそが「生涯活躍のまち」のあり方なのではないか。

(山村人口減少対策室長)

- そのあたりのことを示したのが、資料5の裏面となる。特に右下に記載しているように、「ICT を活用した先進福祉モデル地域として研究機関、企業等を招致」にも取り組んでいきたいと考えている。その際には「「生涯活躍のまち」づくりに資する機器・ソフトウェアの実証の場を提供」の一環として、住民の協力を得ながらデータを取っていくことも行っていくこととしたい。また、シェア金沢と金沢大学の提携（「生涯活躍のまち」づくりによる健康増進効果実証等）のような形をこちらでも展開することができればありがたい。

(馬場先委員)

- 「運営主体選定の考え方」が、福祉関係を意識しているように見えるが、病気になる前の未病の段階の健康推進を前向きにイメージできる



ようにした方が、明るい計画になるのではないか。

(堀田氏)

- まさにそこを目指して行きたいと考えている。記載ぶりを前向きな表現にすること等について検討したい。

(三本松委員)

- 障がい者福祉事業という部分から雇用が発生する。それと合わせて「ローカルベンチャー」「若者等就労支援」という部分で現役世代も運んでくるという形が少しずつ見えてきている。山中という場所は温泉や温泉旅館もあり、温泉の活用の仕方や、雇用の創出なども期待できる。温泉を引ければよいが、引けない場合でも近隣の温泉旅館との協力など、地域内での交流も期待できる。ローカルベンチャーをしたい若者が世帯でくる場合、配偶者が勤めることができるようなまちづくりができれば、地域協力もできるのではないか。全体的に形ができてきていると感じている。

(馬場先委員)

- 指標の考え方について、18 ページの「健康増進に関する成果」のところに、山中圏域内でのボランティア活動件数、参加人数というのがあるが、具体的にはどういうことか。また、「地域活性に関する成果」でも、地域イベントやコミュニティ活動等への参加人数とあり、重複している感じがする。経済波及効果は事業、山中圏域、特定分野のどこの効果なのか。

(堀田氏)

- ご指摘の通り、「健康増進」と「地域活性」の部分で重複しているので、調整することとしたい。また、ボランティア活動や地域活動が健康に結びつくということについて、記載が弱いため、きちんと示すこととしたい。基本計画の5ページに、高齢者の機能変化として、一例だけ記載している。これは外出頻度が健康に影響していることを示したもののだが、ボランティア活動についてもデータが出ているので、表記を工夫したい。経済波及効果をどこまで見るのかということについては、範囲設定、効果測定(因果関係)が難しい部分でもあるため、記載するかどうかも含め検討させて頂きたい。

(藏田オブザーバー)

- 6 ページ「求められる施設の機能」と、7 ページ「地域拠点が担うサービス」について、事業主体はどこまで責任を持って事業を担い、どこから連携して相乗効果を出していくのか、明確にした方がよいのではないか。「ローカルベンチャー」に関わっている立場からすると、

若者向けシェアハウスは「生涯活躍のまち」の事業主体が整備するのか、ローカルベンチャー側で展開するのか、ものづくりコワーキングスペースといのは趣味的なものなのか否か等、事業主体が役割を担って進めていくものを明確にすべき。なお、「ローカルベンチャー」は台湾との連携で20代後半から30代前半の若手の人材を誘致し、地方活性化につなげていこうと考えている。越境を含めた幅広い視点を持ち、多様性を組み込んだ取組みとしていくことで、更なる効果が期待できるのではないかと。

(堀田氏)

- 事業運営主体はこれから公募となるため、運営主体が担う事業範囲については若干あいまいな記載としている。「ローカルベンチャー」「若者等就労支援」も含め、様々な取組みを有機的に連携するため、各主体が集まって協議会で話し合いを行うことを想定している。協議会の中で、各主体の担う範囲に加え、それぞれがバラバラな活動にならないように調整していくことが大切。

(松下座長)

- 15ページの「老朽化した建物が残されており」という記載について、国からの交付金の関係上、建物を壊すには一定の期間が必要と思うが、今回の計画に問題はないのか。

(大田地域医療推進室長)

- 山中温泉医療センターの国に対する償還の2.6億円程度は、機能を全くなくしてしまえば償還という形になるが、診療所等において一部機能を継続しているので、すぐに償還の対象とはならないと理解している。病院財産として古い建物部分があるが、耐震化されていないので壊さなければならない。これは解体した時点で病院財産から落とすということになると理解している。

(河合副市長)

- 山中温泉医療センターの内の診療所として活用していない部分は、28年から5年以内に取り壊すという話であるが、「生涯活躍のまち」の計画のスケジュールはこれを考慮している。

(松下座長)

- 他に質問・ご意見はないか。  
(質問・意見なし)
- ありがとうございます。頂いた意見については、事務局の方で基本構想に反映していきたいと考えている。構想と同様に、変更箇所については「座長預かり」とさせて頂きたい。

<p>その他</p>	<p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 次に「その他」として、事務局からお願いします。</li> </ul> <p>(山村人口減少対策室長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯活躍のまちのスケジュールとしては、資料4「基本計画」の2ページ目を参照頂きたい。本年度5回に渡り検討部会を開催し、加賀市版「生涯活躍のまち」構想、加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画について議論頂いた。今後、地域交流拠点の事業主体の選定を行った後、モデル地域における「生涯活躍のまち」形成事業計画の策定という運びとなる。既存施設の解体・整備に係る補助金の申請があるが、これらをふまえて、施設の運営が開始されるまでの期間を5年程度と見込んでいる。</li> </ul> <p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 質問・ご意見はないか。 (質問・意見なし)</li> <li>● ないようなので、これですべての議事を終了する。</li> </ul>
<p>閉会</p>	<p>(河合副市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本日は年度末にもかかわらず出席頂きありがとうございました。頂いたご意見を今後反映させていきたいと考えている。資料5にあるのが事業のイメージであり、まずはモデル地域として山中で実施していくこととなる。図の左側にある現在市が取り組んでいる事業と融合した形で、ひとつのまちを形成していくというイメージを持っていただけたのではないかと思う。「生涯活躍のまち」は、全国で動いているところはまだ少ない状況にあるが、その中で、加賀市としてどういうものを目指していくのかを出していきたいと考えている。そのひとつが「ごちゃまぜ」である。障がい者、健常者、高齢者、いろいろな方が、手を携えながら、まちを形成していくことをモデルとしてつくっていききたい。また、それを可視化するために、現代のツールを使って数値化を図り、生きがいの持てるまちづくりを実証し、そして発信していくことを、加賀市としてやっていきたいと考えている。計画及び構想をまとめるにあたり、ご支援頂きありがとうございました。</li> </ul>

以上